



検索

学校だより

<https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/yokohamafukayadai> 校長 角井 治朗

令和3年9月29日

10月号

横浜市立 横浜深谷台小学校

校長 角井 治朗

価値と課題の共有から

校長 角井 治朗

厳しかった暑さもようやくやわらぎ、日ごとに秋の気配が深まってきました。新型コロナウイルス感染症の広がりには減少傾向が続き、10月4日からはようやく一斉登校が再開されることになりました。まだまだ予断を許さない状況は続きますが、全ての子どもたちが一緒に学ぶ場が戻ってきたことをうれしく思います。夏休み明けからの一か月間、分散登校をはじめ、様々な感染症拡大防止策のため、多くの我慢を強いられてきた子どもたちですが、落ち着いて学習に取り組んだり静かに給食を食べたりする姿は本当に立派でした。

さて、そのような中、本校では、子どもたちの学習の保障や健康状態の把握等の目的で、タブレット端末の本格的な活用を進めてきました。普段の授業の中でも積極的に活用するとともに、登校した日に操作方法等を確認し、翌日の家庭学習で使ってみるといったことを繰り返すことで、子どもたちも操作に慣れてきている様子です。今はまだ操作や使い方に慣れていく段階ですが、子どもたちがこういった機器を自在に使えるようになり、教科書やノート、鉛筆などと同じように、自分の学習を支えるツールになるような状況が近づいていることを感じます。

一方で、積極的にICT（情報通信技術）機器を使うことで新たな課題も浮かび上がっています。先日は、こうしたタブレット端末がいじめに使われていたことを報じる事件がありました。また、昨年は、オンラインでつながったゲームをきっかけに小学生が連れ去られる事件も起こっています。長時間にわたる機器の利用が及ぼす健康被害も十分配慮していかなければならない問題です。もちろん、これからの時代を生きていく子どもたちにとって、ICT機器を活用していくスキルは必須ともいえるかもしれません。また、子どもたちを取り巻く環境が複雑になる中、ICT機器が子どもたちの学びを支える一つの手立てとなる可能性も大いにあると感じますが、同時に、子どもたちがこういった機器を、安全で豊かな生活に生かしていくためのルールやモラル、リテラシーも身に付けていかなければいけないことを痛感します。また、機器を通じた学びだけに頼ることなく、実物や実体験から感じ、考え、学ぶことの大切さを学習の中にしっかりと位置付けておかなければなりません。保護者の皆様と学校が、これから進んでいく新たな取組について、その価値と課題をしっかりと共有し、共に子どもたちを守る対策を講じていくことの重要性を感じています。